

北海道 SDGs 未来都市計画(2024～2027)

(骨子)

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

(地域特性)

- i 地域の課題や特性、資源
 - ① 北海道の人口動態
 - ② 北海道の地勢・立地条件
 - ③ 北海道の産業経済

- ii 他の自治体と比較しての優位性
 - ① 魅力となる雪や寒さ
 - ② 地理的優位性
 - ③ 厳しい自然条件などの下で培われた優れた技術
 - ④ 優れた自然環境・豊かな水資源と森林
 - ⑤ 広大な土地・3つの海を背景とした高い食料供給力
 - ⑥ 豊富で多様なエネルギー資源
 - ⑦ 多様性に富む地域
 - ⑧ 独自の歴史・文化

(今後取り組む課題)

- ・ 不安定な国際情勢を背景としたエネルギーの安定供給や食料・経済の安全保障など、社会や経済の大きな変化に直面。
- ・ 人口減少・少子高齢化の進行による地域の暮らしや経済を支える担い手不足などの課題も深刻化。
- ・ 大規模自然災害に対する備えも喫緊の課題。
- ・ 北海道の持続的な発展には、本道の特性やポテンシャルを力に変え、様々な変化を捉えて魅力ある地域を創り上げていくことが重要。

<主な課題>

(経済)

- ・ 本道の基幹産業である農林水産業の潜在力の最大限の発揮
- ・ 持続可能な観光への志向の変化
- ・ 半導体・デジタル関連産業など新たな需要の取り込み

(社会)

- ・ 人口減少や少子高齢化の進行
- ・ 医師や看護職員などの地域偏在
- ・ 暮らしや地域を支える様々な分野での人手不足
- ・ 気候変動の影響などによる自然災害の激甚化・頻発化と大規模な地震や豪雨・豪雪など様々な自然災害リスク
- ・ 全国平均を下回る子どもたちの学力、体力
- ・ 暮らしを支える都市機能や生活必需サービスの持続
- ・ 人権を取り巻く状況の複雑・多様化
- ・ 本道ならではの歴史や文化の継承・発信

(環境)

- ・気候変動や外来種の分布拡大などによる豊かな自然の恵みをもたらす生物多様性への影響
- ・再生可能エネルギーの導入拡大も含めた脱炭素化の推進

(2) 成果と課題

- ・道では、「北海道 SDGs 推進ビジョン」や「北海道総合計画」などと連動しながら、その達成に資する施策を推進。
- ・道内市町村でも、SDGs の理念を取り入れながら取組を推進する自治体が増加。
- ・2030 年のあるべき姿の実現、誰一人取り残されることのない持続可能な地域づくりに向けては、北海道全域でのさらなる SDGs の浸透と取組の裾野の拡大が必要。

(3) 2030 年のあるべき姿

「世界の中で輝きつづける北海道」

～ 世界に誇れる北海道の魅力を磨き、育て、様々な強みを活かし、SDGsの推進に積極的に取り組むことによって、「世界の中の北海道」としての存在感を高めながら、誰一人取り残さない、将来にわたって安心して心豊かに住み続けることができる地域社会を形成していく ～

(4) 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

～北海道の価値と強みを活かした持続可能な経済成長～

(社会)

～ i あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成～

～ ii 未来を担う人づくり～

～ iii 持続可能で個性あふれる地域づくり～

(環境)

～環境・エネルギー先進地「北海道」の実現～

2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組の概要(2025～2027 年度の取組)

(経済) ～北海道の価値と強みを活かした持続可能な経済成長～

① 農林水産業

- 力強い農業・農村の確立
- 魅力ある道産食品の高付加価値化及び販路・輸出拡大
- 持続可能な水産業と活気あふれる漁村づくり
- 林業・木材産業の健全な発展と山村地域の活性化

② 観光

- 世界トップクラスの観光コンテンツの確立
- 持続可能な北海道観光の実現

③ デジタル

- デジタル関連産業の集積や半導体関連産業の振興

(社会) ～ i あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成～

①子ども・子育て、医療・福祉

- 妊娠出産の希望がかない、子どもたちが健やかに成長できる環境づくり
- 誰もが安心して暮らしてつづけられる社会の形成
- 将来にわたり安心できる地域医療の確保
- 新たな感染症に対する強靱な体制づくり

② 就業・就労環境

- 多様な働き手の労働参加の促進
- 安心して働ける就業環境の整備

③ 北海道の強靱化

- 大規模自然災害に対する脆弱性の克服
- 防災体制の確立

～ ii 未来を担う人づくり～

① 教育・学び

- 質の高い保育・教育の推進と学ぶ機会の保障
- グローバルな視点を持った人材の育成

～ iii 持続可能で個性あふれる地域づくり～

① 地域づくり

- 連携・協働・交流による持続可能な地域づくりの推進
- 持続的な地域交通や効率的な物流の確保
- 地域の可能性を広げるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進
- 多様性が尊重される地域社会づくり

② 歴史・文化

- ふるさとの歴史・文化の継承と発展、活用
- アイヌの人たちの誇りが尊重される共生社会の実現

(環境) ～環境・エネルギー先進地「北海道」の実現～

① 自然・環境

- 自然環境と社会・経済が調和した持続可能な地域づくり
- 豊かな自然の価値・恵みの保全、生き物と共生する社会づくり
- 環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の形成

② ゼロカーボン

- 2050年までに道内の温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボン北海道」の着実な推進
- 道内へのGX投資促進など再生可能エネルギーを活用した産業振興
- 二酸化炭素吸収源の確保

(2)情報発信

(域内向け)

- ① 道事業における情報発信・普及啓発
- ② セミナーの開催等による普及啓発
- ③ 「北海道SDGs推進ネットワーク」の活用
- ④ SDGs出前講座の実施
- ⑤ SDGs推進人材バンクの運営
- ⑥ 取組事例集の活用
- ⑦ 市町村におけるSDGs推進モデルの作成・展開
- ⑧ 多様な主体との連携による情報発信・普及啓発

(域外向け（国内）)

- ① 道の広報ツールを活用した情報発信
- ② 国と連携した情報発信

(海外向け)

- ① 国際的な団体と連携した情報発信
- ② 国や民間企業等と連携した情報発信

(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

- ① 「北海道SDGs推進ネットワーク」の設置・運営
- ② 市町村におけるSDGs推進モデルの作成・展開
- ③ 取組事例集の活用

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

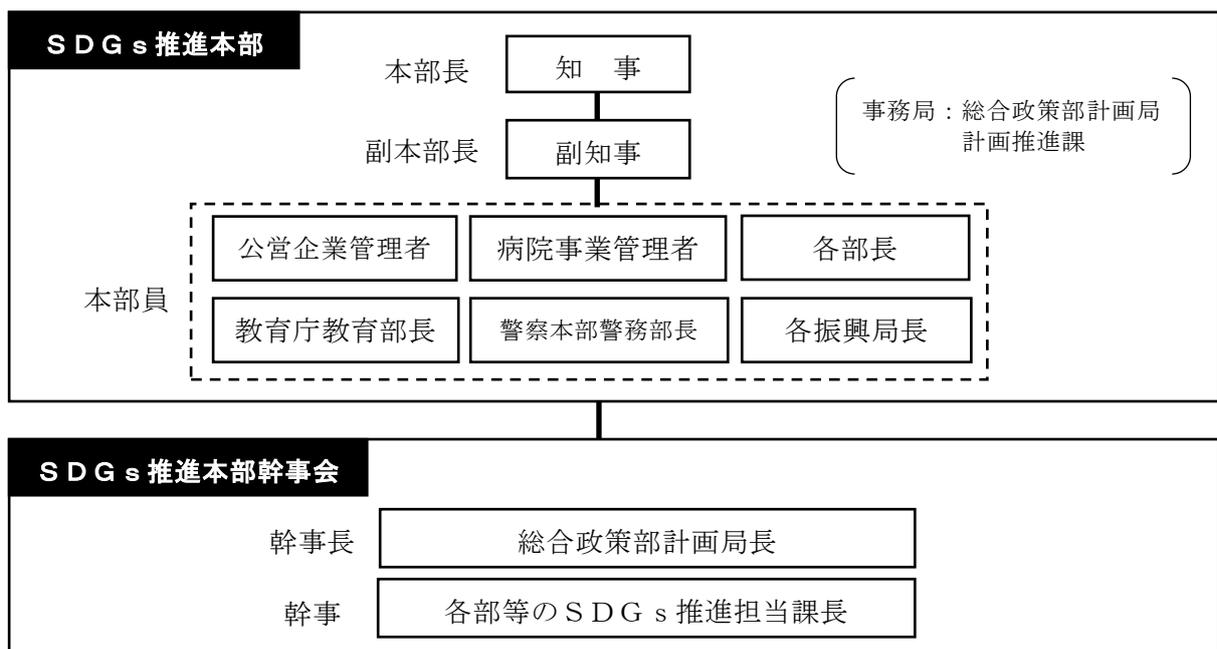
- ① 北海道総合計画
- ② 北海道創生総合戦略
- ③ 北海道環境基本計画

- ・各種分野別計画などへのSDGsの要素を反映状況や方針について記載
- ・北海道SDGs推進ビジョンを踏まえた施策・事業の推進について記載

(2) 行政体内部の執行体制

道では、2018(平成 30)年4月に設置した知事を本部長、副知事及び全ての部長を本部員とする全庁組織「北海道SDGs推進本部」の下、全庁一丸となってSDGsの推進に取り組む。

<北海道SDGs推進本部の体制>



(3) ステークホルダーとの連携

(域内外の主体)

- ① 北海道SDGs推進ビジョンの策定・推進
- ② 北海道SDGs推進ネットワークの構築
- ③ 交流セミナーの開催
- ④ 多様な主体と連携した取組の実施

(国内の自治体等)

- ① 道内未来都市等との連携による取組の実施
- ② 北海道SDGs推進ネットワークへの道内自治体の参加促進
- ③ 市町村におけるSDGs推進支援
- ④ 国と連携した情報発信

(海外の主体)

- ① 国際的な団体と連携した情報発信
- ② 国や民間企業等と連携した情報発信

(4) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

- ① 「北海道SDGs推進ネットワーク」の運営
- ② 市町村におけるSDGs推進モデルの作成・展開
- ③ SDGsの推進に取り組む企業等の見える化
- ④ 地域の金融機関等との連携

(将来的な自走に向けた取組)

- ① 「北海道SDGs推進ネットワーク」の活用
- ② 市町村におけるSDGs推進モデルの展開
- ③ 「北海道 SDGs 推進サポート制度」の運用

4 地域創生・地域活性化への貢献

- ・ 道では、「北海道 SDGs 推進ビジョン」を策定し、SDGs の取組を推進。
- ・ 「北海道総合計画」は、SDGs の理念と合致し、その達成に資する施策を推進。
- ・ これらの計画とも連動しながら、多様な主体との連携・協働と取組の裾野の拡大により、北海道全体で持続可能な社会の実現を目指し、地域創生・地域活性化を推進。